

6 調査研究リーフレット

高等学校・特別支援学校の教職員の方々

行政・市民活動支援センター・社会福祉協議会の職員の方々へ

高校生の地域活動参加促進に向けて ～高校生と関わる大人ができること～



さあ、今こそ高校生の「地域参画」！

なぜ、高校生の地域参画が“今”必要か？

現状

学校では…

- 新学習指導要領への対応
- 働き方改革の推進 等

地域では…

- 地域の人間関係の希薄化
- 高齢化・過疎化・少子化 等

高校生は…

- 自己有用感、学習意欲が低い
- 社会に関わる意識が低い 等

高校生の地域参画

効果

学校では

「生きる力」を育む学びが充実する

- 地域における活動を通じた探究的な学びが実現できる
- 学校の中だけではできない多様な社会体験が提供できる
- 生徒の成長を促す学びの土壌ができる

地域では

「地域活性化」のきっかけになる

- 高校生との関わりを通して地域の魅力を再確認できる
- 異世代のつながりが生まれ、お互いに助け合い、支え合う地域コミュニティの再生につながる

高校生は

「社会的な自立」のきっかけになる

- 自分と社会とのつながりを実感できる
- 自分らしさを発揮できる世界が広がる
- ソーシャルスキルを身につけられる

学校が変わる！
地域が変わる！

変容

「生徒の学びを深める学習環境づくり」「地域教育力の向上・持続可能な地域づくり」

栃木県総合教育センターでは、県民、特に高校生の地域活動参加を促進する目的で、高校生、県民、県立学校教員、行政・市民活動支援センター（以下、ボラセン）・社会福祉協議会（以下、社協）等職員約 4,700 名に対して、地域・社会への課題認識や活動・学習への意識についてアンケート調査を実施しました。

調査結果の詳しい内容を知りたい方は、Web サイト「とちぎレインボーネット」にアクセスして、「地域課題に関する調査研究」を御覧ください。

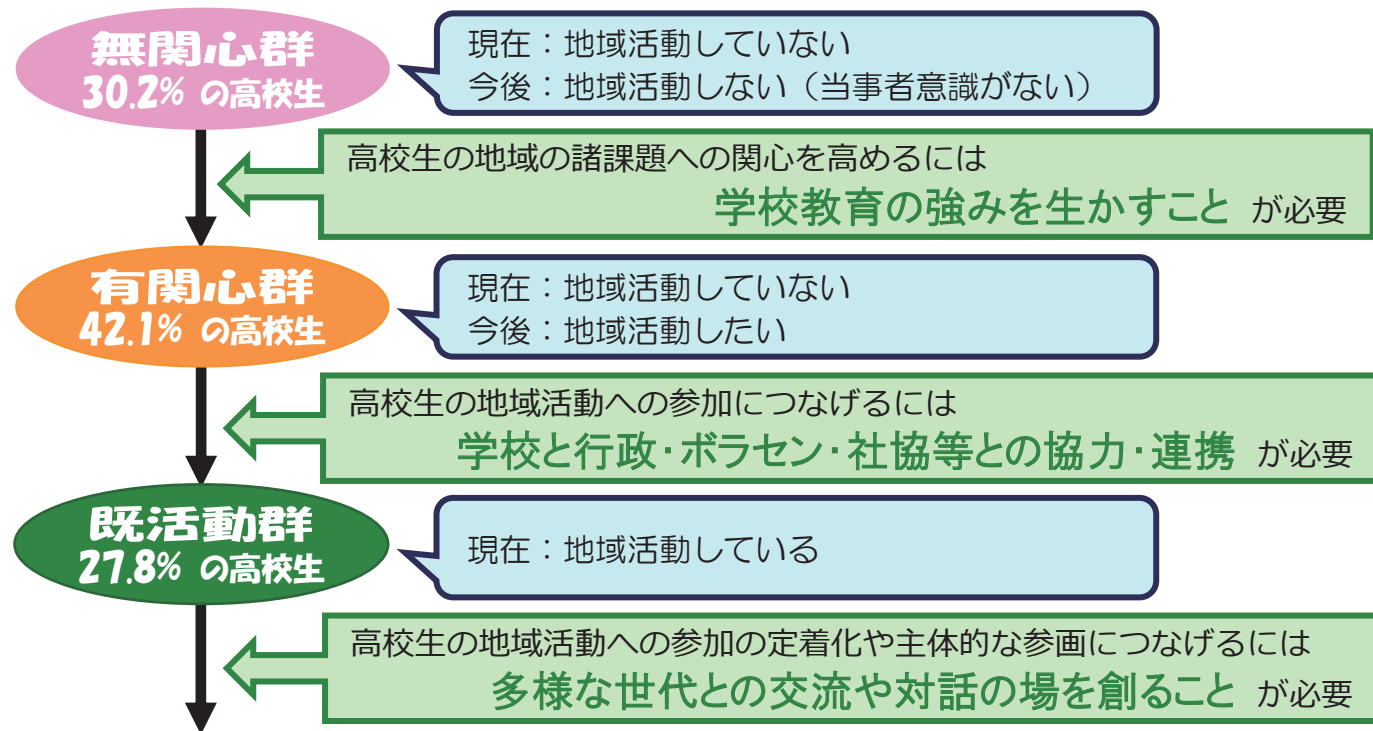


アン シン
「アン・シン」は、栃木県総合教育センターのマスコットキャラクターです。

高校生の地域活動への関心の度合いの差

地域活動の「現在の取組状況」と「今後の取組意思」の調査結果から、高校生を次のような3つの群に分類しました。これらは、高校生の地域活動への関心の度合いで分類しています。地域活動への参加、定着につなげていくためには、それぞれに合わせたアプローチの工夫が必要となってきます。

= 地域活動への関心の度合いによる高校生の分類とアプローチの工夫 =



高校生対象調査の回答者 2,692 名のうち、有効回答者 2,590 名の分類。パーセント表示については、小数第 2 位を四捨五入して掲載。

無関心群 の高校生のために

「社会参画意識」を高める教育の充実

地域や社会に興味や関心がない高校生に対しては、自分のやりたいことなどを考えさせると同時に、自分と他者が生活している社会にまで視野を広げ、地域課題解決に対する当事者意識を高めていくことが必要となってきます。このような姿勢は、高校生に求められる姿であり、学校教育において、社会参画意識を高める教育を充実することが求められます。

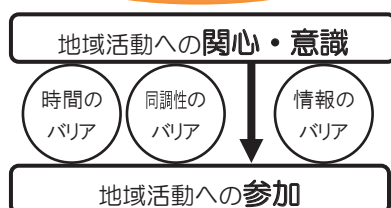


* 高等学校・特別支援学校ができること *

- 主権者教育、キャリア教育の視点のもとに、高校生の社会参画意識を高めるといふ目的を明確にし、現在実践している教育活動を改めて見直していきましょう。その際、体験活動、探究活動を取り入れながら実践していくと効果的です。
- 高校生の率直な課題認識や見方、考え方を生かした探究学習を提供し、能動的な学びにしていきましょう。
 - 特にグループ学習では、チームづくりを大切にして、そのスキルを学ばせたり、役割を明確にしたりすることで、高校生がチーム内で「役立っている」感覚、いわゆる自己有用感をもてるように配慮することが必要です。

有関心群 の高校生のために

高校生が地域活動に参加しやすい環境づくり



地域活動への関心・意欲はあるものの、実際の地域活動参加にまで至らないのは、その間にバリア（障壁）が介在するからです。その一つ一つを取り除いていくことで、高校生が地域活動に参加しやすい環境が整っていきます。



* 高等学校・特別支援学校ができること *

○部活動や課外授業等の効果的な時間の配置を考えましょう。

【学習や部活動により制約される時間のバリアの解消】

→高校生が社会貢献や自己への投資など、主体的に時間の使い方を考え、行動できるように支援していくことが大切です。

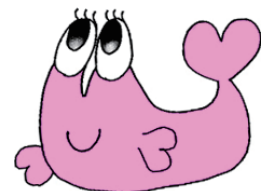
* 行政・ボラセン・社協ができること *

○既存の団体とのマッチングや、高校生同士での団体の設立など、活動意欲のある高校生をつなげていきましょう。

【1人では活動への参加や継続に至らない同調性のバリアの解消】

○学校と協力して、活動機会や学習機会の情報を発信しましょう。

【活動情報のやりとりが滞る情報のバリアの解消】



既活動群 の高校生のために

模範となる地域の大人との関係づくり

高校生の地域活動を定着化するためには、活動への参加意欲をさらに高め、活動の質の向上や、新たな活動参加につなげていくことが必要となってきます。そのためには、高校生に対して活動をより充実させるための学習の必要性を示唆すること、また、その機会を提供していくことが大切で、高校生に寄り添える大人の存在（コーディネーター等）が重要といえます。高校生と大人の関わりにより、地域の活力が生まれ、住民どうしの結びつきもよりいっそう強くなっていきます。



* 高等学校・特別支援学校ができること *

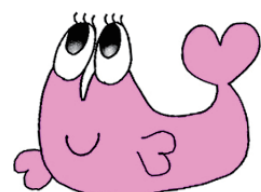
○行政や中間支援センター、社会福祉協議会が実施している事業に目を向けて、高校生に情報を提供していきましょう。

OPTAや同窓会と連携し、多様な大人、社会との接点を設けることも有効です。

* 行政・ボラセン・社協ができること *

○活動意欲のある高校生をつなげるとともに、先輩・後輩の関係や地域の大人との関係が円滑に構築していけるよう、支援していきましょう。

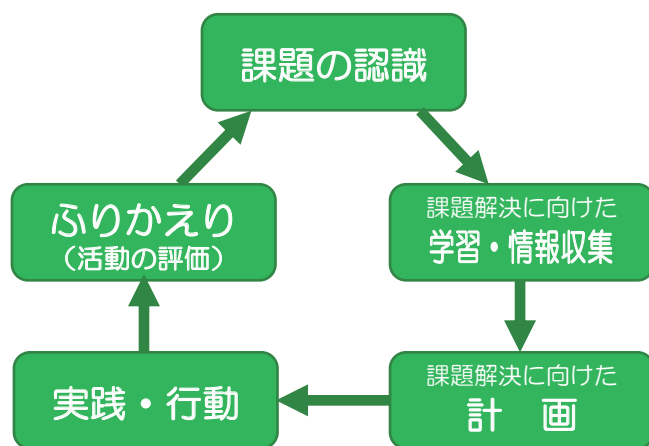
→必要に応じて助言したり見守ったりするなど、高校生の自発性を尊重する姿勢が重要です。そうして自己有用感が育まれると、地域活動に継続的にまた能動的に参加し、定着化につながります。



地域課題の特徴に合わせたアプローチ

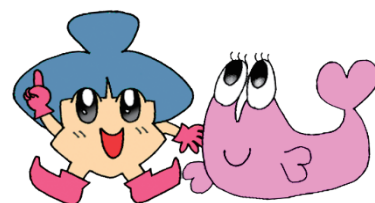
課題解決のフローは、右のとおりです。このサイクルが円滑であるとき、主体的な活動参加につながっているといえます。このサイクルを円滑に進めていけるよう支援していくことが必要です。

例えば、「課題の認識」が「実践・行動」につながっていない場合には、活動できる場を創出することが求められます。また、高校生が、地域や社会からの要請を受けて「実践・行動」している場合があります。そのような場合には、活動への責任感や当事者意識を持たせて、地域や社会の課題として捉えさせたり、課題解決に向けた「学習・情報収集」や「計画」立案に取り組ませたりすることで、主体的な参画にしていけることが大切です。



それぞれの立場でできること

○地域課題における課題解決のサイクルが、円滑にいかない理由を明確にし、その解消に向けて支援することが必要です。



高校生と関わる大人がつながろう！ ～高校生の地域活動参加促進に向けて～

「第3期教育振興基本計画」や「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」等において、地域課題解決のための学びの推進、高校生に地域課題の解決等を通じた探究的な学びを提供する取組の推進が示されており、高校生の地域活動への参加・参画を促進することが求められています。

本リーフレットでは、高校生の地域活動への関心の度合いにより、「社会参画意識を高める教育の充実させること」「高校生が地域活動に参加しやすい環境づくりをすること」「模範となる地域の大人との関係づくりをすること」を、その手立てとして挙げました。高校生の地域への関心を高め、円滑に地域活動につなげ、定着化させるためには、また、高校生が主体的に地域活動に参画するためには、学校とその周囲にある行政、企業、ボラセン・社協など、多様な機関が積極的につながることが必要となります。

高校生への効果的な支援を進めていくために、高校生と関わる大人がつながる、すなわち、学校と地域の連携・協働体制を構築しましょう！

地域の諸課題への
関心を高める

地域活動への
参加につなげる

地域活動の参画・
定着化を目指す



栃木県総合教育センター
生涯学習部

TEL : 028-665-7206
FAX : 028-665-7219
E-mail : skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

とちぎレインボーネット
のQRコードはこちら！



令和2（2020）年 3月

・詳しくは、Web サイト「とちぎレインボーネット」を御覧ください！
URL <https://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/>
・学校と地域のつながりづくりなど、御相談は上記まで御連絡ください。